Akita University

巻頭言

今年はICMI－日数教 数学教育国際会議が東京で10月に開かれます。思えば、この国際会議が日本で開かれるのは二度目で、前回は1974年11月に東京で開かれています。この間9年、数学教育に関する研究の国際的動向は大きく変化しております。

前回の国際会議のときには 数学教育現代化運動の総括等とともに、「数学教育のカリキュラムと教員養成」が主題でありました。今回は、急速に移る社会の変容に対応する学校数学のカリキュラムと学習指導のあり方が問題の中心となっております。

わが東北数学教育学会も、この急変する社会の流れに対処する中で、数学教育の基礎的科学的な研究を、理論・実践の両面から追究してきました。その成果は、多くの研究発表の中に明らかであります。とくに、現場サイドからの突込みや教育機器にからんだ研究、さらに時代の先端を行く視点からの各種調査には注目すべきものがあります。

ICMI－日数教の数学教育国際会議の年にあたり、わが同人も新しい気持ちで、いよいよ研究を深め、また国際会議にも多数参加して、東北勢の意気込みを示したいものであります。

このたび、世話人が変り、この年報は遠三郎氏（秋田大）をキャップとして編集・発行されることになりました。今までとはちがった斬新な内容とスタイルのものができ上がることを期待し、あわせて本学会のいっそうの発展を願っております。

年報の前編集者として、一言感想を述べ、巻頭のことばとする次第です。

秋岡元久（山形大学）